

## 1. 単元名 災害に強いまちづくり

### 2. 単元目標

- ・いつ起きるかわからない災害に対して、「自助」だけでなく「共助」にも視野を広げ、防災についての様々な取組や方法を学ぶことができる。 (知識及び技能)
- ・自分事として地域での防災について共助を意識して考えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・自分も、家族も、地域も災害から守るため自分たちができることを考えさせる意欲と態度を育てる。 (主体的に学習に取り組む態度)

### 3. 単元について

#### (1) 教材について

日本はもともと台風や地震などの災害が多い国であるが、ここ20年ほどで、集中豪雨や大型台風、大地震などが何回も発生し、今までにない大きな災害が増えていると言われている。「自分の住んでいる場所で大きな災害が起こったら、どうしたらいいのか」と自分の身に置き換えて考え、備えておくことが大切である。また、地球温暖化と気候変動の影響は、遠い世界の国の出来事ではなく、日本に住む私たちにとっても決して他人事ではない。さらに、近年予測される南海トラフによる巨大地震や津波の被害状況も報道され、全国的に防災について改善策が報じられている。それらを自分事としてとらえ、自分ができないことはないだろうか考える意欲と態度を高めたい。

#### (2) 児童について

本学年の児童は、調べ学習は積極的に取り組む児童が多く、多くの情報量を収集することには抵抗はない。しかし、多くの情報から、必要な情報を取り上げ、自分の言葉で伝える文章に変えることは苦手意識を持つ児童が多い。そこで、この単元を設定し、学習を進めていく中で、災害が起きた時に自分だけでなく、家族や地域のために行動できる人、当事者としての意識を高めるとともに、分かりやすく伝える方法の大切さに気づかせたい。

#### (3) 指導について

学習のはじめに、5年生で学んだ自然環境について振り返る。日本には豊かな自然がある一方で、気候変動が激しい中で私たちは生活をしており、自然災害など厳しさや問題があることを確認させる。次に過去に起きた自然災害として、大きな被害がでた阪神淡路大震災・東日本大震災を取り上げ、調べさせる。児童が関心のあることを調べていく中で、震災の怖さや普段の日常生活はあたりまえでないと感じさせたい。そして修学旅行で北淡震災記念公園に行き、阪神淡路大震災について実際の震度を体験したり、断層を見たり、震災を経験された方の講話を聞き、被害の大きさを学ばせる。そのうえで、災害が起きた時に何ができるか、何が必要であるかを考えさせたい。さらに、避難所運営ゲーム(HUG)を通して、避難所生活を送る中で自分も、家族も、地域も安心・安全につながる場所にしていかなければいけないこと、様々な事情を持った避難者に寄り添って対応していかなければならないことに気付かせ、一人ではなく多くの人と意見交流を重ねる中で考えをまとめさせる。最後に「自分たちにどんなことができるか」について、調べたり、まとめたり、意見を提案しあうことで自分事として防災について考え、知識を深められるようにしたい。これらを学習することで、今後予測されている南海トラフ地

震に備えて一人一人が防災意識を高めていくことが、防災に強いまちづくりの一要素となると考える。

#### (4) ESD との関連

##### ・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

- ・相互性・・・地域との関りがなく、人と人とのつながりができていない状態では、地域の中で孤立してしまうこと。
- ・連携性・・・これからの防災について、行政だけが努力するのではなく、私たちが地域全体のことを考えて努力することが大切であること。
- ・責任性・・・これからの地域を引っ張っていく私たちが防災に対する考えや行動を変えていくことが大切であること。

##### ・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ・未来像を予想して計画を立てる力  
いつ起きるかわからない自然災害（地震）に対して命を守る行動ができるか、自分たちの生活を見つめ直す。
- ・コミュニケーションを行う力  
自分たちができる防災について、意見交流を通して自分の考えをつくりあげる。
- ・進んで参加する態度  
自然災害などで避難する時には自分だけでなく、家族や地域との協力が必要不可欠であり、自分たちができることを考えていかなければならない。

##### ・本学習を通して育てたい ESD の価値観

- ・世代内の公正  
自分も、家族も、地域も安心・安全につながる防災を追求することが大切である。
- ・自然環境を重視する  
自然災害が起きる要因の1つとして環境問題が挙げられる。自然環境について理解せず「災害に強いまちづくり」の実現はできない。
- ・幸福感に敏感になる  
普段の日常生活はあたりまえではないこと。

##### ・達成が期待される SDG s

- 9 自然災害にも強い公共施設
- 11 持続可能なまちづくり
- 13 地球温暖化が進み、気候変動が厳しい中での生活

#### 4. 評価規準

| ア 知識・技能                                | イ 思考・判断・表現                            | ウ 主体的に取り組む態度                    |
|--|---------------------------------------|---------------------------------|
| ①災害の怖さを感じ、身を守る方法に「自助」「共助」があることを理解している。 | ①過去の震災について、グループでのテーマに沿ってタブレットで表現している。 | ①単元を通して、関心を持ち、意欲的に調べたり考えたりしている。 |
| ②各グループで調べたり、まとめたりしている。                 | ②テーマの中でこれから何ができるのかを自分事として考え、          | ②自分事として、家族や地域の人を災害から守っていこうとし    |

|  |         |      |
|--|---------|------|
|  | 表現している。 | ている。 |
|--|---------|------|

### 5.単元計画（16時間）

| 次                      | 主な学習活動  | 学習への支援  | 評価   |
|------------------------|---|---|--|
| 一次<br>み<br>つ<br>め<br>る | ①5年生で学んだ学習で、自然環境とかかわる大切さを思い出す。<br>②自然災害について学ぶ。  | ・世界自然遺産や四季など、日本には豊かな自然がある一方で、自然災害など、自然には厳しさや怖さもあることに気付かせる。<br>・地震・津波・大雨・土砂災害など、   | 【ウ①】   |
| 二次<br>調<br>べ<br>る      | ③過去に起きた大きな震災（阪神淡路大震災・東日本大震災）について調べ、個人で調べる。<br>④テーマを設定し、グループごとに調べ、スライドにまとめる。<br>⑤伏見小学校が避難所になったとしたら<br>・必要な物資はどこにあるのか？・物資は足りているのだろうか？<br>⑥校区の中で、避難所になるところはどこだろうか？   | ・児童の関心のあることで調べることができるようにする。<br>・個人で調べたことをもとに、グループの中で調べた内容の共通点や差異点を考える。<br>・話し合いで、グループでのテーマを見出す。<br>・知りたいことを出し合い、家族に聞いたり、地域の方に聞いたりする。<br>・奈良市のホームページなどから防災地区や避難所情報を確認できるようにする。 | 【ウ①】<br><br>【イ①】<br>【イ②】<br><br>【ア①】<br><br>【ア①】 |
| 三次<br>ふ<br>か<br>め<br>る | ⑦現地学習<br>北淡震災記念公園に行き、当時の状況や地震について学ぶ。<br>⑧現地学習<br>阪神淡路大震災を経験された消防団の方の話を聞き、理解を深める。<br>⑨避難所運営ゲーム（HUG）<br>避難所生活について学び、避難所運営について様々な視点から考える。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自分たちが家族や地域のためにできることってなんだろう。</div><br>⑩自分たちが家族や地域のために実践できることを考える。 | ・現地学習で、調べたことや新たに知ったことについて考える。<br>・学年全体で消防団の方の話を聞き、防災についての理解を深める。<br>・様々な事情に対応できるよう、意見を出し合いながら避難所の運営を体験できるようにする。<br>・現在、伏見小学校に設置されていないものであると便利なもの（かまどベンチ）や避難場所として必要なものを考えさせる。  | 【ア①】<br><br>【ア①】<br><br>【ウ②】<br><br>【ウ②】         |

|                                   |  |  |             |
|-----------------------------------|--|--|-------------|
| <p>四<br/>次<br/>ひろ<br/>げ<br/>る</p> | <p>①避難所生活をよりよくするためには、どんなことが必要か考える。</p> <p>②今からできること（南海トラフが起きたとき）を提案する。</p> | <p>・避難所での生活が長引いた場合、どんなことが起こりえるかを予測し、必要なことを考える。</p> <p>・学習したことをふまえて自分たちができることを提案する。</p> | <p>【ウ②】</p> |
|-----------------------------------|--|--|-------------|

考察 成果と課題

学習する前に「防災」とはどんなイメージですか。と尋ねたところ、家で（食べ物・水・懐中電灯など）備える、自分の身・命を守る、こわい、大変、「やった方がいいと思っていたけど、別にやらなくてもいいかな」という意見であり、他人事のように考えている児童が多く見られた。

防災について学習する前と後で防災についての意識は高まりましたか。とアンケートをとった結果、80%の児童が高まった・まあまあ高まったと回答した。このことから学習したことによって防災について児童の意識は高まったといえる。また児童に、これからの生活で自分ができる防災は何かと尋ねたところ、非常食や防災グッズを用意しておく、避難所やハザードマップの確認、自分で身を守るといった学習前の防災のイメージと似た内容を挙げる児童が多く、高まりがあまり見えなかったが、「身近な人に意識を高めさせる」「下の学年に災害について知ってもらう」「避難を呼びかけるようにする」といったように、自分だけでなく他者にも防災についての視野を広げることができていたことは成果として感じられた。自分も家族も地域も、安心・安全な防災を追求するといった考え方の基礎が「世代内公正」の価値観とともに育まれたと考える。また、避難所運営ゲーム（HUG）では、様々な要望や事情を抱えた避難者をどのように配置するかを考える中で、児童から「子どもがいる家族の避難者は同じ場所にしよう」「災害本部は職員室にしよう」「高齢者の方は1階の部屋にしよう」といった意見が出た。他者の範囲にまで広げて想像し、考えることが「未来像を予想して計画を立てる力」の資質・能力につながったと考える。

課題としては、1年を通して学習をすすめる予定ではあったが、学年集団としてのウエイトの置き方などがクリアできず、ひろげる段階に十分に時間を使うことができなかった。その結果、自分たちができることとして取り組みたかった、「かまどベンチ」の作成や広報活動といった取り組みまですすめることができなかったことが1点目である。2点目としては、今からできることについて提案する段階で、前時までの学習を通して、自分たちだけではできないから行政に提案してみようという考えが児童たちから出したことが出てこなかったことである。カリキュラムマネジメントとして、社会の学習時に、願いを実現する政治として、具体的な例なども用意し、行政を自分事として感じることもっとできていたら意見として出てきたのではないかと考えている。

②総合の時間に防災（阪神淡路大震災・東日本大震災について調べる学習 北淡震災記念公園での学習 消防団の方の講話など）について学習する前と後で防災についての意識は高まりましたか。

③これからの生活で自分ができる防災は何ですか。

身近な人に意識を高めさせる。

②総合の時間に防災（阪神淡路大震災・東日本大震災について調べる学習 北淡震災記念公園での学習 消防団の方の講話など）について学習する前と後で防災についての意識は高まりましたか。

③これからの生活で自分ができる防災は何ですか。

下の学年に学習について伝えて防災について知ってもらう。避難訓練で、実際に起きたことを想像して行う。

総合 防災の学習について

①学習する前「防災」とはどんなイメージでしたか。

ひびくだけたイメージ

②総合の時間に防災（阪神淡路大震災・東日本大震災について調べる学習 北淡震災記念公園での学習 消防団の方の講話など）について学習する前と後で防災についての意識は高まりましたか。

③これからの生活で自分ができる防災は何ですか。

みんなもよびかけられる。